
一般社団法人
全国専門学校情報教育協会
Institute for Vocational College, Information Technology Education

第1回定時総会 資料

平成23年6月22日 於：東京／中野サンプラザ

- 第1号議案 平成22年度 事業報告
- 第2号議案 平成22年度 収支決算報告
- 第3号議案 平成23年度 事業計画案
- 第4号議案 平成23年度 収支予算案

目 次

第1号議案 平成22年度事業報告	2
1. 総会	2
2. 理事会（常任理事会含む）	2
3. 委員会	2
(1) 財務委員会	2
(2) 調査委員会	3
(3) 研修委員会	3
(4) イベント委員会	5
(5) 企画委員会	8
4. その他の事業	8
第2号議案 平成22年度 収支決算報告	9
第3号議案 平成23年度 事業計画案	13
1. 事業計画	13
(1) 法人運営の安定化（財務委員会）	13
(2) 調査事業（調査委員会）	13
(3) 研修事業（研修委員会）	14
(4) イベント事業（イベント委員会）	14
(5) 新規収益事業（企画委員会）	14
2. 会議等	15
(1) 総会	15
(2) 理事会	15
(3) 常任理事会	15
(4) 委員会	15
第4号議案 平成23年度 収支予算案	16

第1号議案 平成22年度事業報告

1. 総会

平成22年度定例総会（第14回）は6月9日に五反田ゆうぼうとにて開催され、以下の事項について審議検討を行った。

- 第1号議案 平成21年度事業報告
- 第2号議案 平成21年度収支決算報告
- 第3号議案 平成22年度事業計画案
- 第4号議案 平成22年度収支予算案
- 第5号議案 本会の一般社団法人への移行について
- 第6号議案 役員改選の件

2. 理事会（常任理事会含む）

平成22年度は、理事会2回、常任理事会2回を開催し、以下の件について審議した。

（1）本会の法人化について

本会の目的達成および事業を円滑に行うために、本会の法人化を図ることを総会へ議案を提出、承認を得た。法人区分は、一般社団法人とし平成22年度中の設立を目指した。なお、具体的な手続き等については、財務委員会が担当し一般社団法人格を取得した。

（2）本会が行う収益事業等について

本会の経営的基盤を安定させるためには、会費収入のみならず、それ以外の事業収入が必要であるとの結論から、特別委員会を設置して具体的な事業について検討を行った。

（3）本会が実施するイベント事業の運営について

本会会員校のうち多くの学校が取り組んでいる教育に対応する新規イベント立案が必要であることから、会員校の多くが設置する学科等を検討し、ゲーム・CG分野のイベントを新規イベントとして検討することとした。具体的にはイベント委員会の下部にワーキングを組織した。

3. 委員会

（1）財務委員会

第14回定例総会の決定に伴い、本会の法人化に伴う定款等の書類整備を行った。また、本会の予算編成並びに決算、財務管理などについて検討を行った。

(2) 調査委員会

平成22年度は、実践キャリア制度に関する調査を行った。

効果的な調査が進行できるよう、調査委員全員が議論するにたる素地を作るため、委員会の目的である「情報系専修学校が育成すべきIT人材（情報処理技術者）像の抽出」、「IT人材の根源的なスキルを抽出し、これを醸成するに最適なカリキュラムの骨格を探る」ための情報収集を主たる活動とした。

■実践キャリア制度概要調査

目 的：内閣府が検討しているキャリア段位（日本版 NVQ）について、今後の展開や方向性の情報収集を行い、情報系専修学校が育成すべき IT 人材の基礎資料とする

時 期：2010年12月9日

対 象：大久保 幸夫氏（内閣府参与、リクルートワークス研究所所長）

方 法：ヒアリング

※具体的な内容は資料を添付する（資料1、2）。

(3) 研修委員会

研修委員会は、会員校の教育内容の充実、募集・広報活動の活性化等を図るための各種研修の立案と運営を行った。また、ITおよびコンテンツを教育する教員として、一定レベルの教育の質を担保するための教員研修および今後の研修形態について検討を行った。平成22年度は東京で3回の委員会を開催した。

■研修会開催状況（P4 参照）

a. 管理者研修

定例総会に合わせて、管理者を対象とした管理者研修を実施した。

b. 協会オリジナル教員研修

教員向け研修は4研修（運営系2、IT技術系2）を実施した。

c. 文部科学省プロジェクトと連携した説明会および研修会

文部科学省プロジェクトと連携して 4 テーマの実証研修や説明会等の実施協力をした。

■専修学校フォーラム

本会会員および専修学校関係者を対象として、教育情報、経営情報、教育トレンドを提供することや、文部科学省のプロジェクトの発表の場として専修学校フォーラムを開催した。

日 程：平成23年2月22日（火）～23日（水）

会 場：中野サンプラザ

参加者：178名

後 援：経済産業省

協 力：財団法人専修学校教育振興会、全国専修学校各種学校総連合会
 全国学校法人立専門学校協会

■平成22年度 実施研修一覧

(1) 情報協会オリジナル研修

① 管理者研修

A=運営系、B=IT技術系

No	日時	研修名	講師	会場	区分	分類	募集人数	参加人数	募集率
1	6/9	「2010年度大学の入試結果動向」	近藤 治	ゆうぼうと	A	管理職・募集・広報	40	40	100.0%

② 教員向け研修

2	8/27	ITパスポート試験対策 ストラテジ分野・マネジメント分野集中セミナー	大越 肇	日本電子専門学校	B	IT技術	20	10	50.0%
3	8/28	ITパスポート試験対策 ストラテジ分野・マネジメント分野集中セミナー	大越 肇	日本電子専門学校	B	IT技術	20	7	35.0%
4	9/10	ゆとり教育世代の学力低下対策と大学初年次教育の事例研修会	谷口 哲也 成田 秀夫	日本電子専門学校	A	学校運営・募集・広報	30	12	40.0%
5	9/15	『就職担当者研修会』 ～厳しい就職環境での就職活動支援と学生指導体制の構築～	鈴木 友之	日本電子専門学校	A	学校運営・募集・広報	30	20	66.7%
教員向け研修計							100	49	49.0%

③ 専修学校フォーラム

6	2/23～ 24	専修学校フォーラム2010	—	中野サンブラザ	総合	総合	160	178	111.3%
---	-------------	---------------	---	---------	----	----	-----	-----	--------

情報協会オリジナル研修計

合計							300	267	89.0%
----	--	--	--	--	--	--	-----	-----	-------

(2) 文部科学省プロジェクト説明会および研修

No	日時	研修名	講師	会場	事業分類	募集人数	参加人数	募集率
1	1/28	『看護師に必須のコミュニケーション教育に関する説明会』	鹿野 晴夫	専門学校穴吹医療カレッジ	C. 医療・福祉系	30	20	66.7%
2	2/21	病院勤務医が求める中堅医療秘書育成のためのレベル別教育プログラム開発教員研修会	野田 雅司 瀬戸 僚馬 伊藤 典子 柄沢 清	アルカディア市ヶ谷	C. 医療・福祉系	30	12	40.0%
3	2/23	ゲームCG分野人材スキルマップ説明会	柴原 健次	中野サンブラザ	B. ICT系	30	36	120.0%
4	2/23	ものづくりスキル標準説明会	渡邊 秀樹	中野サンブラザ	A. 生産・ものづくり	30	28	93.3%
委託事業研修計						120	96	80.0%

総合計

総合計						420	363	86.4%
-----	--	--	--	--	--	-----	-----	-------

(4) イベント委員会

「第19回全国専門学校ロボット競技会」、「第7回ビジネスプロデュースコンペティション」の企画・運営を行った。また、新たなイベントについて検討をした。

■第19回全国専門学校ロボット競技会

日 程：平成22年12月22日（水）、23日（木・祝）

会 場：大田区産業プラザ PiO 1階大展示ホール

主 催：全国専門学校情報教育協会／財団法人専修学校教育振興会

後 援：文部科学省／経済産業省

日本経済新聞社／テレビ東京／読売新聞東京本社

協 力：専門学校新聞社

競 技：・自律型ロボット対戦競技（ソフトウェア部門）

・自律型ロボット対戦競技（ハードウェア部門）

・有線型ロボット対戦競技

・二足歩行ロボット競技

■参加校・参加部門・参加チーム数一覧（13校 64チーム）

NO	学校名	ソフト	ハード	有線	二足	計
1	日本工学院八王子専門学校	4	3	2	2	11
2	名古屋工学院専門学校	2	2	2	2	8
3	大阪工業技術専門学校		1	2		3
4	浜松情報専門学校	2	3	2		7
5	専門学校麻生工科自動車大学校	2	1		2	5
6	専門学校越生自動車大学校	2	2			4
7	中日本航空専門学校		2	1	1	4
8	東日本デザイン&コンピュータ専門学校	2	1			3
9	麻生情報ビジネス専門学校	2			1	3
10	横浜システム工学院専門学校	3	1		2	6
11	東京電子専門学校		3			3
12	情報科学専門学校新横浜校	2	1		1	4
13	原田学園ハイテク専門学校		1	2		3
		21	21	11	11	64

■協賛企業（五十音順） 9社

株式会社オーム社	株式会社タレントデータバンク
広告社株式会社	株式会社ブレインズ・ネットワーク
株式会社JSコーポレーション	株式会社ボーンデジタル
株式会社 昭栄広報	株式会社ライセンスアカデミー
専門学校新聞社	

■協賛専門学校（五十音順） 6校

東京電子専門学校	日本電子専門学校
名古屋工学院専門学校	浜松情報専門学校
日本工学院八王子専門学校	学校法人吉田学園

■第19回全国専門学校ロボット競技会 結果一覧

順位	学校名	ロボット名	ロボット名ふりがな
自律型ロボット対戦競技 ソフトウェア部門			
優勝	横浜システム工学院専門学校	YSE_CR-Z	ワイエスイー__シーアールゼット
準優勝	浜松情報専門学校	はまぷろ2010	はまぷろにせんじゅう
第3位	日本工学院八王子専門学校	真緋蜂	しんひばち
第3位	日本工学院八王子専門学校	敬天愛人	けいてんあいじん
自律型ロボット対戦競技 ハードウェア部門			
優勝	専門学校越生自動車大学校	工務店号	こうむてんごう
準優勝	浜松情報専門学校	伸びた君	のびたくん
第3位	東京電子専門学校	天ZONE	あまゾーン
第3位	日本工学院八王子専門学校	W-RUN	ウイニング ラン
有線型ロボット対戦競技			
優勝	名古屋工学院専門学校	RAYSHIKI	れいしき
準優勝	原田学園ハイテック専門学校	THE 黒豚	ザくろぶた
第3位	大阪工業技術専門学校	フェニックスマター	フェニックスマター
第3位	浜松情報専門学校	Masaka!	まさか
二足歩行ロボット競技			
優勝	横浜システム工学院専門学校	YSE_ASIMO	ワイエスイー__アシモ
準優勝	横浜システム工学院専門学校	YSE_GUNDOM	ワイエスイー__ガンダム
第3位	日本工学院八王子専門学校	シュペーラー01	シュペーラー ゼロワン
第3位	名古屋工学院専門学校	Stadium021	ステューディウム ぜろにいち
優 秀 賞			
優秀 ソフトウェア賞	名古屋工学院専門学校	HOPE	ホープ
優秀 ハードウェア賞	原田学園ハイテック専門学校	だだん	だだん
優秀 メカニック賞	中日本航空専門学校	トリプル・ウィング号	トリプル・ウィングごう
優秀 ヒューマノイド賞	麻生情報ビジネス専門学校	博多えのっち	はかたえのっち
ロボコム賞	名古屋工学院専門学校	クマ吉	くまきち
団体優勝	横浜システム工学院専門学校		

■第7回ビジネスプロデュースコンペティション

- ・ビジネスプラン募集期間 : 平成22年11月10日～平成22年12月10日
- ・一次審査(書類選考) : 平成22年12月16日(木)
- ・二次審査(BPC大会) : 平成23年1月21日(金)
 - ※一次審査を通過したビジネスプランのプレゼンテーション
 - 会場 日本電子専門学校 B1 メディアホール
- ・応募実績 : 15校 41プラン(昨年度実績 12校 43プラン)
- ・一次審査通過 : 9校 10プラン(昨年度実績 9校 10プラン)
- ・後援 : 経済産業省(後援名義使用許可、経済産業政策局長賞交付)

■参加校(15校)

NO	学校名	応募数
1	沼津情報・ビジネス専門学校	4
2	新潟高度情報専門学校	1
3	大阪芸術大学附属大阪美術専門学校	1
4	日本工学院八王子専門学校	2
5	大村美容ファッション専門学校	3
6	総合電子専門学校	5
7	名古屋工学院専門学校	5
8	中国デザイン専門学校	1
9	専門学校松江総合ビジネスカレッジ	1
10	国際デザイン・ビューティカレッジ	6
11	上田安子服飾専門学校	1
12	日本電子専門学校	1
13	東北電子専門学校	7
14	麻生情報ビジネス専門学校	2
15	新潟ビジネス専門学校	1
	合計	41

■第7回ビジネスプロデュースコンペティション 結果一覧

順位	学校名	ビジネスプラン名
グランプリ 経済産業政策局長賞	大阪芸術大学附属 大阪美術専門学校	『学生のためのトータルサービス「TOBEJ」 日本に来た留学生が日本で就職できるまでの 語学力サポートと就職のサポート』
準グランプリ	新潟高度情報専門学校	『伝統的工芸品「漆器《を守るためのビジネス》 ～漆器家本舗からの発信～』
アイデア賞	麻生情報ビジネス 専門学校	『Funky Nostalgic School - FNS -』 あなたの心の隙間お埋め致します
マーケティング賞	東北電子専門学校	『企業対抗運動会』 ① 運動上足解消の為。 ② ビジネスに繋がる。
プレゼン賞	日本工学院八王子 専門学校	『エコ弁(Web ページ吊)制作』

(5) 企画委員会

会員の会費負担の軽減および協会活動を活発化による経営基盤の強化を図るため、2回の会合を行い、新たな収入源となるべき新規収益事業を検討した。

4. その他の事業

(1) ホームページを利用した各種情報の提供

本会ホームページを利用した各種PR活動の提供は、研修会や委員会活動報告、会員校イベント情報をはじめ、賛助会員や各種教育関連団体などから寄せられた38件のトピックス（ニュース）を掲載した。

(2) インターネットメールによる各種情報の提供

本会会員校の教職員ならびに、教員研修会等参加者のうち情報配信を希望した方を対象に18件のメールニュースを発行した。掲載内容は、本会が行う研修会の募集情報などのほか、会員校、賛助会員から寄せられたイベントやキャンペーン情報等の配信を行った。

第2号議案 平成22年度 収支決算報告

平成22年度 収支計算書 (平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)

(単位:円)

勘定科目	22年度予算額	22年度決算額	増減額	備考
(収入の部)				
会費収入	(11,350,000)	(10,300,000)	(1,050,000)	
年度会費収入	9,300,000	8,700,000	600,000	
新規入会金収入	50,000	50,000	0	
賛助会費収入	2,000,000	1,550,000	450,000	
研修会参加費等収入	(2,140,000)	(794,000)	(1,346,000)	
研修会参加費等収入	2,140,000	794,000	1,346,000	
イベント開催協力金	(5,100,000)	(5,579,265)	(△ 479,265)	
ロボット競技会開催費収入	5,000,000	5,479,265	△ 479,265	
ビジネスプロテュースコンパ開催費収入	100,000	100,000	0	
雑収入	(40,000)	(4,944)	(35,056)	
雑収入	40,000	4,944	35,056	
当期収入合計(A)	(18,630,000)	(16,678,209)	(1,951,791)	
前期繰越収支差額	(21,831,485)	(21,831,485)	(0)	
収入合計(B)	(40,461,485)	(38,509,694)	(1,951,791)	
(支出の部)				
会議費	(3,330,000)	(2,133,648)	(1,196,352)	
総会運営費	650,000	355,638	294,362	
役員会運営費	1,500,000	692,481	807,519	
委員会等運営費	980,000	885,529	94,471	
部会会費	200,000	200,000	0	
事業費	(2,480,000)	(1,322,328)	(1,157,672)	
研修会等事業費	1,600,000	769,164	830,836	
調査研究費	300,000	305,848	△ 5,848	
広報活動費	280,000	142,316	137,684	
会員加入促進費	300,000	105,000	195,000	
イベント開催費	(5,100,000)	(5,629,447)	(△ 529,447)	
ロボットコンテスト開催費	4,900,000	5,227,573	△ 327,573	
ビジネスプロテュースコンパ開催費	200,000	401,874	△ 201,874	
事務委託費	(10,000,000)	(10,000,000)	(0)	
事務委託費	10,000,000	10,000,000	0	
組織改革費	(500,000)	(315,990)	(184,010)	
組織改革費	500,000	315,990	184,010	
雑費	(50,000)	(12,417)	(37,583)	
雑費	50,000	12,417	37,583	
予備費	(201,485)	(0)	(201,485)	
予備費	201,485	0	201,485	
当期支出合計(C)	21,661,485	19,413,830	2,247,655	
当期収支差額(A)-(C)	△ 3,031,485	△ 2,735,621	△ 295,864	
次期繰越収支差額(B)-(C)	18,800,000	19,095,864	△ 295,864	

第19回 全国専門学校ロボット競技会会計報告書

(平成22年4月1日から平成23年3月31日)

(単位:円)

収入の部

勘定科目	予算額	決算額	差異	備考
競技会参加費	700,000	640,000	60,000	
協賛金	1,700,000	2,139,265	△ 439,265	
開催協力金	2,600,000	2,700,000	△ 100,000	
収入合計	5,000,000	5,479,265	△ 479,265	

支出の部

勘定科目	予算額	決算額	差異	備考
会場等設営費	1,740,000	1,807,172	△ 67,172	
大会運営費	1,000,000	1,211,400	△ 211,400	
印刷費	120,000	182,376	△ 62,376	
通信費	80,000	105,344	△ 25,344	
商品費	160,000	189,159	△ 29,159	
大会記録費	20,000	0	20,000	
会議費	240,000	97,622	142,378	
人件費	280,000	374,500	△ 94,500	
事務局運営費	1,260,000	1,260,000	0	
支出合計	4,900,000	5,227,573	△ 327,573	
情報会計繰越金	100,000	251,692	△ 151,692	

平成22年度 財産目録

平成23年3月31日現在

(単位:円)

科 目	金 額
資産の部	
流動資産	
1. 現金預金	
現金 現金手許有高	88,661
普通預金 三菱東京UFJ銀行:東中野支店(0948013)	13,907,193
定期預金 三菱東京UFJ銀行:東中野支店(0948013)	5,000,000
2. 未収入金	416,000
資 産 合 計	19,411,854
負債の部	
流動負債	
1. 未払金	315,990
負 債 合 計	315,990
正 味 財 産	19,095,864

監 査 報 告 書

全国専門学校情報教育協会

理事長 吉 田 松 雄 殿

私たちは、全国専門学校情報教育協会の平成22年度（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）における収支計算書、財産目録、諸証票書類ならびに同事業年度の理事の業務状況について監査を実施した。

その結果、財務諸表等は協会の収支及び財産の状況を適正に表示しているものと認めた。

また、理事の業務執行状況も適正であると認めた。

平成23年5月26日

監 事 西 沢 正 樹 ⑩

監 事 菅 原 一 博 ⑩

監 事 菊 田 薫 ⑩

第3号議案 平成23年度 事業計画案

本会は、平成9年4月1日に財団法人専修学校教育振興会から独立してから14年が経過した。情報処理科に在籍する専修学校学生数は、平成4年度の9万8000人と比較して、平成22年度は2万8000人となり、学生数は約7割も減少してしまった。また、本協会もピーク時には、260校を越える会員数があったが、現状では100校を下回る会員数となり、学生数の減少と同等の約7割の学校が本会を去ってしまった。

IT業界の世界的な流れは、Googleの快進撃やスマートフォンの台頭等に見られるように、IT技術・インターネットを利用したビジネスや映画・映像等を筆頭としたコンテンツ産業が急速に進化し、その速度を速めながら進化し続けている。

国は、IT業界やコンテンツ業界を成長産業として位置づけ、産学連携による人材育成や若年層からのIT教育の導入など様々な施策が実施されている。

しかしながら、現状は「人は必要とされているが学ぶ学生がいない」というねじれ現象が生じている状態である。

そこで本会は、以下の目的を再認識し、協会として行うべき事業の目標を明確にし、活動を行うこととする。

- (1) 成長産業たるべきIT業界並びにコンテンツ業界の発展に寄与するために、専門学校が育成すべき人材を明らかにするとともにその達成を目指す。
- (2) ITを活用した教育の実施例等を会員に提供し、会員が行う教育効率を高める。
- (3) 本会が行う事業を通じて、会員が発展する。

1. 事業計画

(1) 法人運営の安定化（財務委員会）

- ① 本会が一般社団法人として運営するにあたり必要な諸規定の整備を行う。
- ② 本会の財務状況について管理し、予算執行を円滑に行う体制を整備する。

(2) 調査事業（調査委員会）

- ① 平成22～25年度における調査委員会の目的
 - ・ 情報系専修学校が育成すべきIT人材（情報処理技術者）像の抽出
 - ・ IT人材の根源的なスキルを抽出し、これを醸成するに最適なカリキュラムの骨格を探る
- ② 平成23年度事業計画
 - 効果的な調査が進行できるよう、まずは全委員が議論するにたる素地を作るため、平成22年度に引き続き、上記2テーマに関する情報収集を主たる活動とする。

③調査時期・対象（案）

7月中	独立行政法人情報処理推進機構（IPA）ITスキル標準センター長
9月中	amazon 社他、クラウドサービス提供企業 開発責任者
11月中	スキル標準ユーザー協会 理事、（株）スキルスタンダード研究所 所長
1月中	文部科学省 中等教育局 教科情報カリキュラム設定ご担当者

※Skype 等、通信会議インフラの浸透を受け、今後の委員会予算圧縮も狙い、上記調査のうち可能な回は電子会議を試行する。

（3）研修事業（研修委員会）

- ①ITおよびコンテンツを教育する教員として、一定レベルの教育の質を担保するための体系的な教員研修の設計・実施について検討する。
- ②会員の研修ニーズをもとに研修を設計し、会員に提供する。
- ③「専修学校フォーラム」の目的や運営方法について再検討し、今年度も実施する。
- ④研修のWeb上での配信について研究し、企画立案および実施の検討を行う。

（4）イベント事業（イベント委員会）

- ①第20回全国専門学校ロボット競技会を実施する。
- ②第8回ビジネスプロデュースコンペティションを実施する。また、協賛金および受益者負担によるコンペティション運営について検討をする。
- ③ゲーム・CGに関する新たなイベントを企画設計する。ワーキングにより具体的なイベント実施の検討、企画提案をする。平成23年度は、本格開催に向け試行的にイベントを実施する。

（5）新規収益事業（企画委員会）

会員の会費負担の軽減および協会活動を活発化し、経営基盤の強化を図るため、新たな収入源となり得る新規収益事業を検討し、実行する。

- ①教材等を電子書籍化した教材販売事業
- ②インターネット、スマートフォンを活用した会員紹介ポータルサイトの運営事業
- ③Webを活用した学園祭等のイベント事業の検討

④認定・評価事業の検討（学校認定、教員認定）

⑤その他目的を達成するために必要な事業の企画立案

2. 会議等

(1) 総会

本会運営にかかわる重要事項を決定・承認するために6月および2月に定時総会を行う。

(2) 理事会

理事会は、本会の執行機関であり、業務執行の決定・監督のため3回程度開催する。

(3) 常任理事会

常任理事会は、正副理事長、専務理事、委員会を担当する理事で組織し、事業の進捗等の連絡・調整を密に図るために3回程度実施する。

(4) 委員会

本会が行う事業の具体的な検討は委員会が行う。

第4号議案 平成23年度 収支予算案

平成23年度 収支予算案
(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位:円)

勘定科目	23年度予算案	22年度予算案	増減額	備考
(収入の部)				
会費収入	(11,350,000)	(11,350,000)	(0)	
年度会費収入	9,300,000	9,300,000	0	
新規入会金収入	50,000	50,000	0	
賛助会費収入	2,000,000	2,000,000	0	
研修会参加費等収入	(1,060,000)	(2,140,000)	(△ 1,080,000)	
研修会参加費等収入	1,060,000	2,140,000	△ 1,080,000	
イベント開催協力金	(5,200,000)	(5,100,000)	(100,000)	
ロボット競技会開催費収入	5,000,000	5,000,000	0	
ビジネスプロデュースコンペ開催費収入	200,000	100,000	100,000	
雑収入	(100,000)	(40,000)	(60,000)	
雑収入	100,000	40,000	60,000	
当期収入合計(A)	(17,710,000)	(18,630,000)	(△ 920,000)	
前期繰越収支差額	(18,800,000)	(21,831,485)	(△ 3,031,485)	
収入合計(B)	(36,510,000)	(40,461,485)	(△ 3,951,485)	
(支出の部)			0	
会議費	(3,787,000)	(3,330,000)	(457,000)	
総会運営費	577,000	650,000	△ 73,000	
役員会運営費	1,400,000	1,500,000	△ 100,000	
委員会等運営費	1,610,000	980,000	630,000	
部会費	200,000	200,000	0	
事業費	(2,450,000)	(2,480,000)	(△ 30,000)	
研修会等事業費	1,600,000	1,600,000	0	
調査研究費	300,000	300,000	0	
広報活動費	250,000	280,000	△ 30,000	
会員加入促進費	300,000	300,000	0	
イベント開催費	(5,380,000)	(5,100,000)	(280,000)	
ロボットコンテスト開催費	4,900,000	4,900,000	0	
ビジネスプロデュースコンペ開催費	280,000	200,000	80,000	
CG・ゲームコンペ開催費	200,000	0	200,000	
事務委託費	(9,000,000)	(10,000,000)	(△ 1,000,000)	
事務委託費	9,000,000	10,000,000	△ 1,000,000	
組織改革費	(0)	(500,000)	(△ 500,000)	
組織改革費	0	500,000	△ 500,000	
雑費	(50,000)	(50,000)	(0)	
雑費	50,000	50,000	0	
予備費	(43,000)	(201,485)	(△ 158,485)	
予備費	43,000	201,485	△ 158,485	
当期支出合計(C)	20,710,000	21,661,485	△ 951,485	
当期収支差額(A)-(C)	△ 3,000,000	△ 3,031,485	31,485	
次期繰越収支差額(B)-(C)	15,800,000	18,800,000	△ 3,000,000	